

平成17年3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成17年2月15日

上場会社名 名港海運株式会社

（コード番号：9357 名証第2部）

（URL <http://www.meiko-trans.co.jp>）

代表者 役職名 取締役社長 氏名 三輪 尚治

問合せ先責任者 役職名 常務取締役 氏名 近藤 久忠 （TEL（052）661-8134）

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
（内容）

法人税等の計上基準等に一部簡便的な方法を採用しております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成17年3月期第3四半期財務・業績の概況（平成16年4月1日～平成16年12月31日）

（1）経営成績（連結）の進捗状況 ・記載金額は表示単位未満切捨て、比率は四捨五入しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第3四半期	41,042	7.8	2,867	-	3,328	-	1,647	-
16年3月期第3四半期	38,070	-	-	-	-	-	-	-
(参考) 16年3月期	51,058		2,906		3,394		1,625	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
17年3月期第3四半期	52	59	-	-
16年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考) 16年3月期	50	11	-	-

（注）売上高におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

なお、前年同四半期については売上高のみを開示しており、営業利益等の記載を省略しております。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国経済は、好調な輸出や民間設備投資の増加などにより、企業収益の改善が進み、個人消費も明るい兆しが見え始めるなど、景気は総じて堅調に推移しました。

当社グループが営業の基盤を置く名古屋港の港湾貨物は、自動車関連産業などを中心に、輸出入貨物共に増加となりました。

このような状況のなか、当社グループでは、積極的な営業活動を展開するとともに、顧客ニーズに対応したサービスの向上、物流合理化及びコスト削減に取り組み、業績の向上に努めました。

これらの結果、当第3四半期の売上高は、410億42百万円（前年同期比7.8%増）となり、営業利益は28億67百万円、経常利益は33億28百万円、四半期純利益は16億47百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

港湾運送及びその関連事業の売上高は364億47百万円（前年同期比8.8%増）、営業利益は26億79百万円、倉庫・賃貸事業の売上高は45億94百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は1億87百万円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	70,322	48,217	68.6	1,539 95
16年3月期第3四半期	-	-	-	- -
(参考) 16年3月期	69,262	47,054	67.9	1,500 63

【 連結キャッシュ・フローの状況 】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	1,787	2,168	526	10,944
16年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考) 16年3月期	2,673	2,736	464	11,848

(注)当四半期より四半期財政状態の開示を行っているため、前年同四半期については記載を省略しております。

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

(財政状態)

当第3四半期の総資産は、前連結会計年度に比べ10億60百万円の増加となりました。

増減の主なものは、資産の部は、倉庫新築及び増築など、設備投資により有形固定資産が8億5百万円増加しております。

一方、負債の部は、法人税等の支払いにより、未払法人税等が2億61百万円、賞与の支給により賞与引当金が4億36百万円それぞれ減少し、資本の部は利益剰余金が11億86百万円増加しております。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期の連結キャッシュ・フローは、営業活動からのキャッシュ・フローの増加、投資活動によるキャッシュ・フロー及び財務活動によるキャッシュ・フローの減少、これに現金及び現金同等物に係る換算差額(3百万円の増加)があり、全体で9億4百万円の減少となり、現金及び現金同等物の期末残高は109億44百万円となりました。

営業活動からのキャッシュ・フローは、17億87百万円となりました。これは税金等調整前四半期純利益33億20百万円が反映された一方で、賞与引当金の減少が4億36百万円あったことが主な要因です。

投資活動により支出されたキャッシュ・フローは、21億68百万円となりました。これは有形固定資産の取得による支出が18億38百万円あったことが主な要因です。

財務活動により支出されたキャッシュ・フローは、5億26百万円となりました。これは、配当金の支払額が4億22百万円あったことが主な要因です。

3. 平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日~平成17年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通期	53,000	3,700	1,820	58 10

[業績予想に関する定性的情報等]

業績予想につきましては、平成16年11月24日に公表いたしました予想に変更はありません。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。